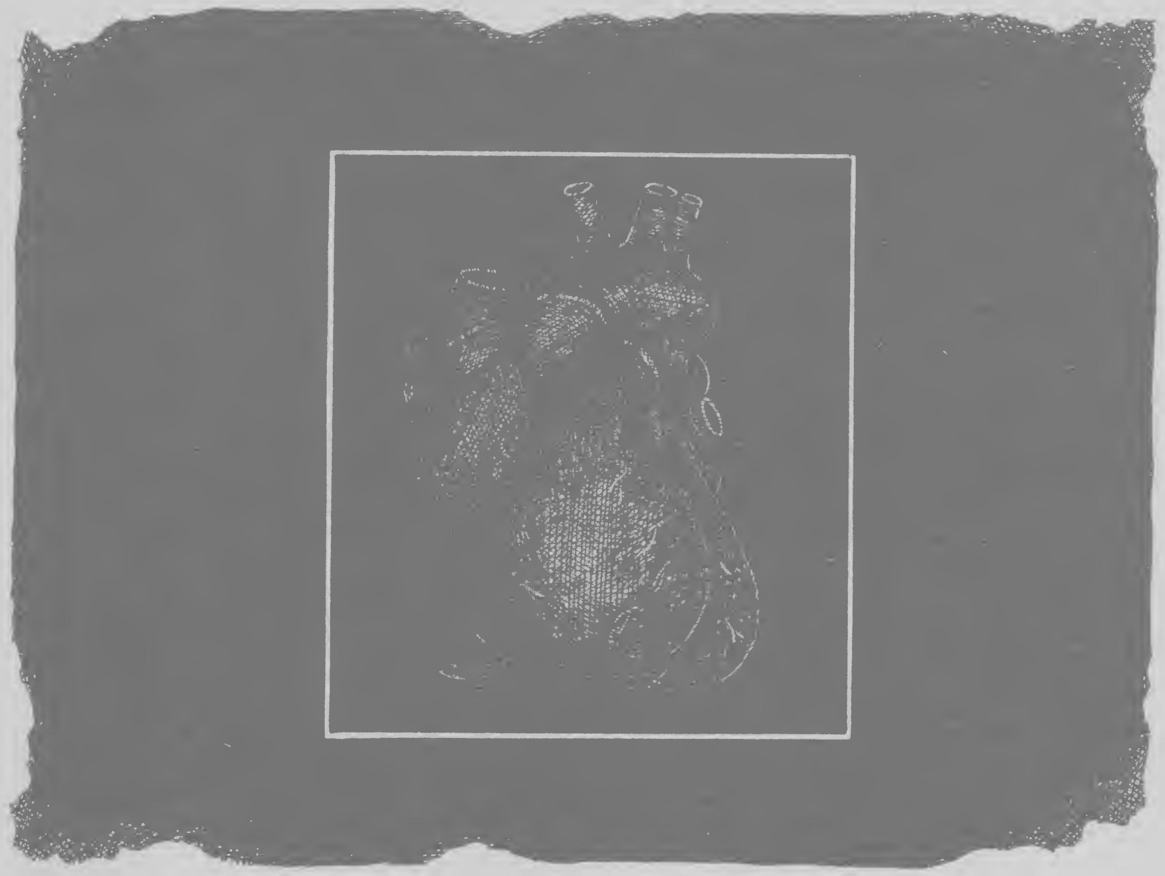
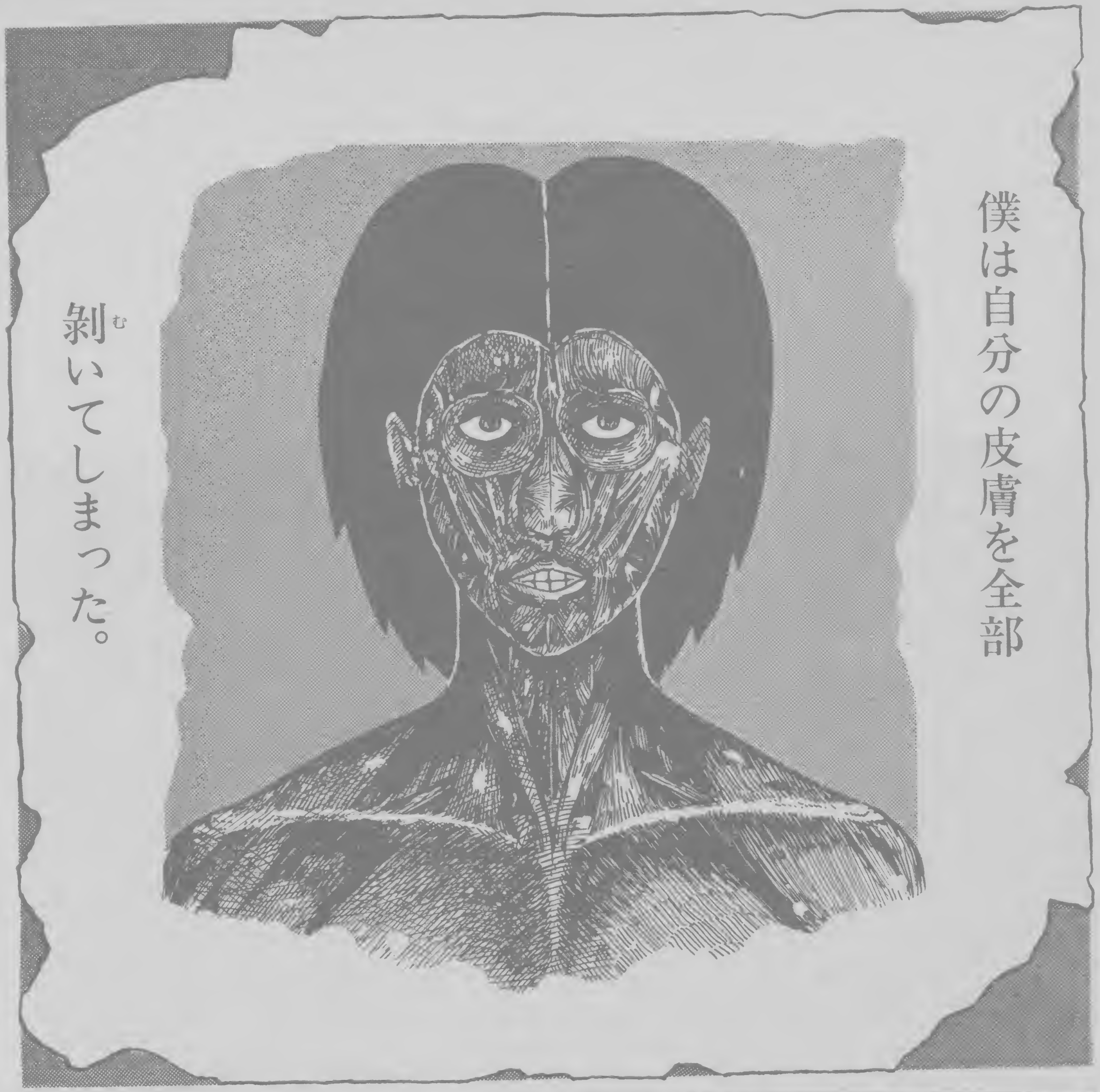
入選作品

伸助君のあるばいと



明石　正

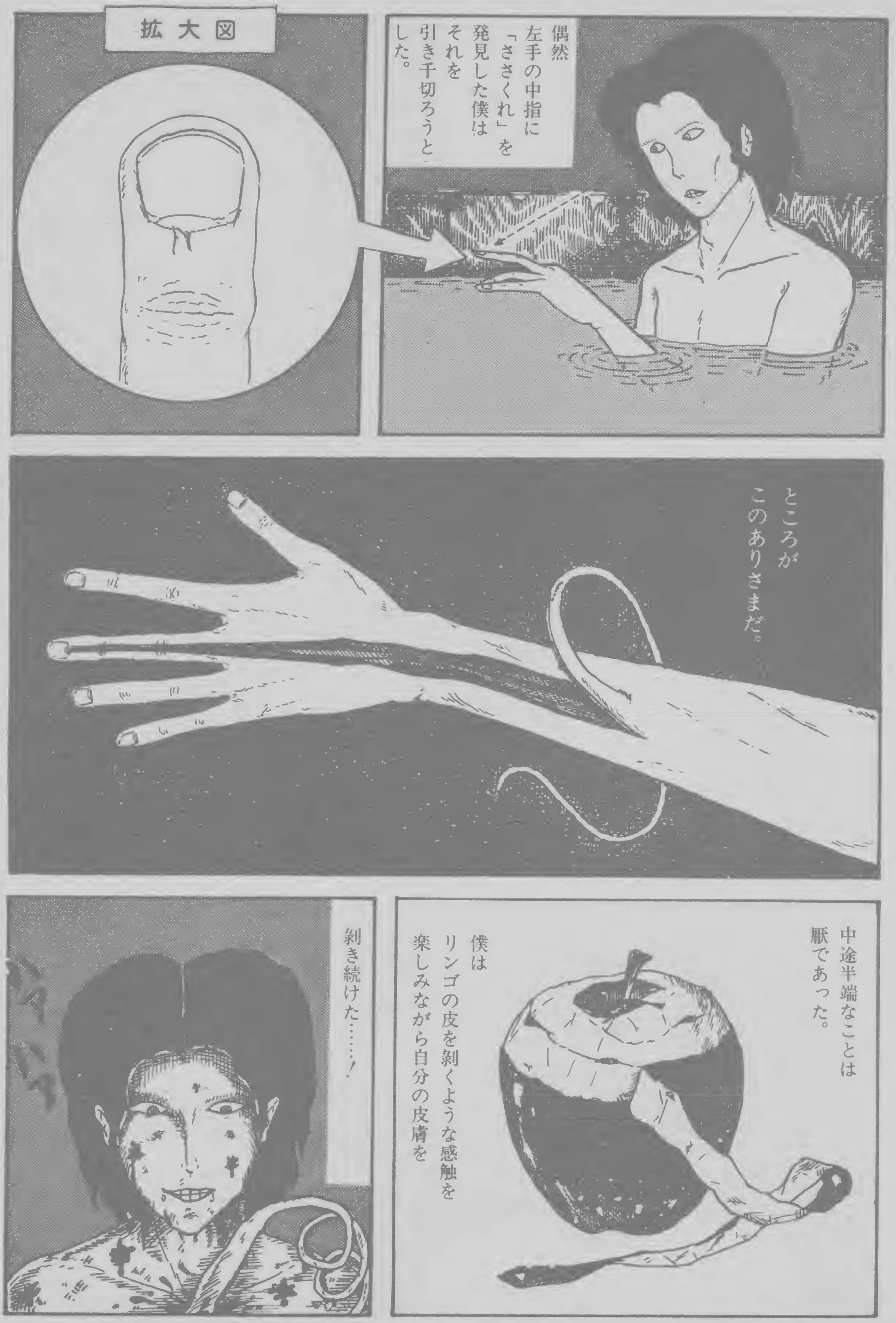


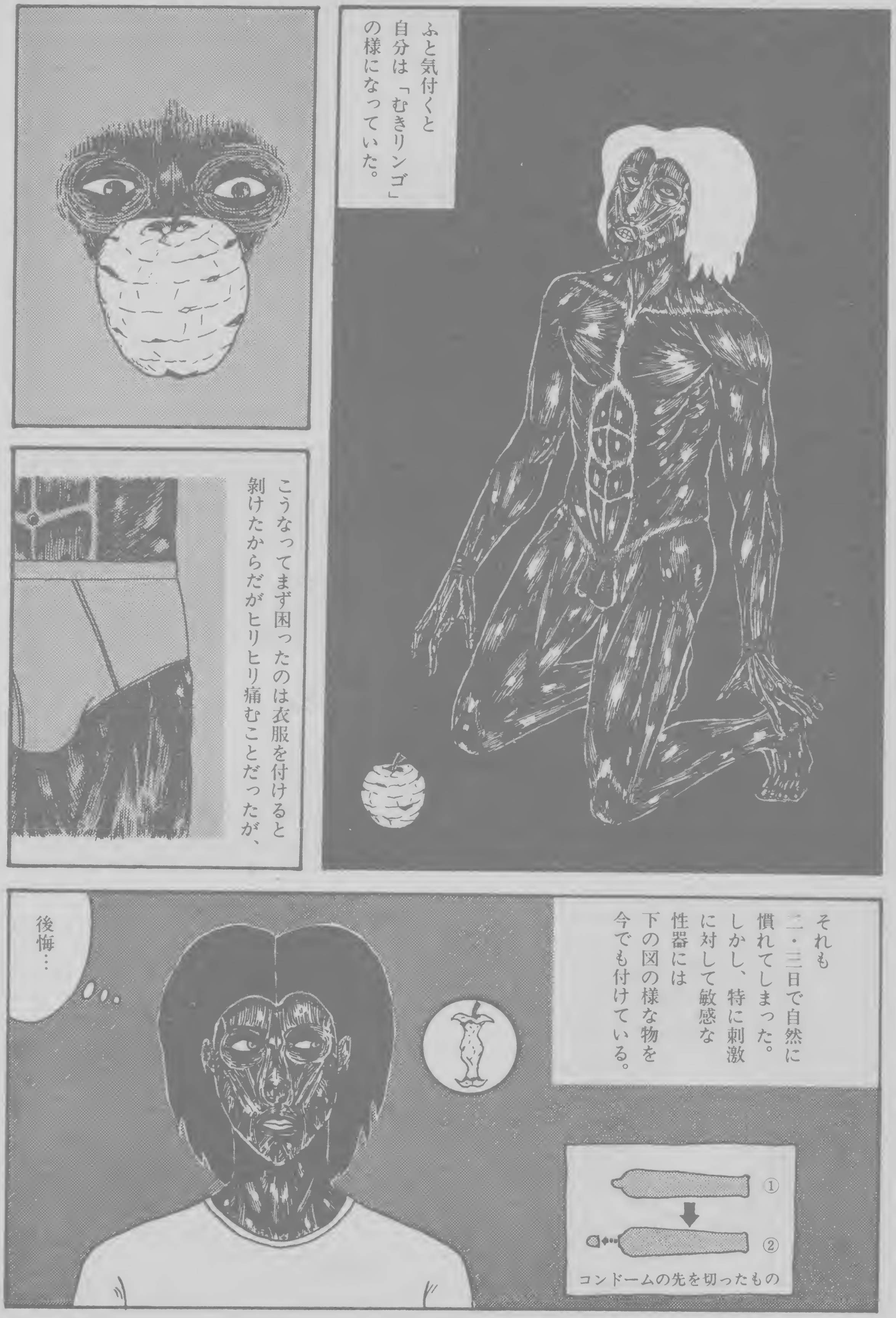
僕は自分の皮膚を全部剥（む）いてしまった。

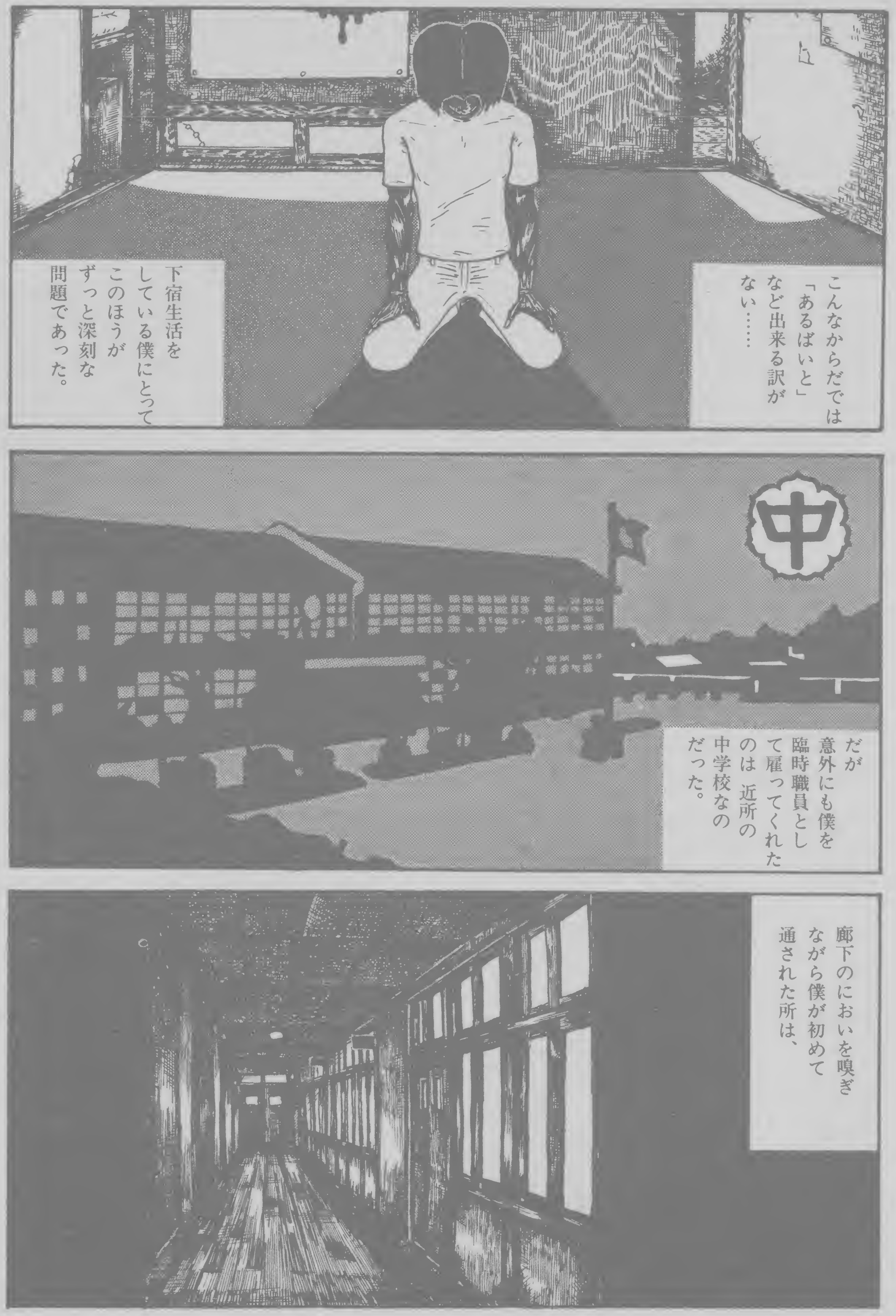
あれは二カ月前僕が水風呂に漬かっていた時のことだ。

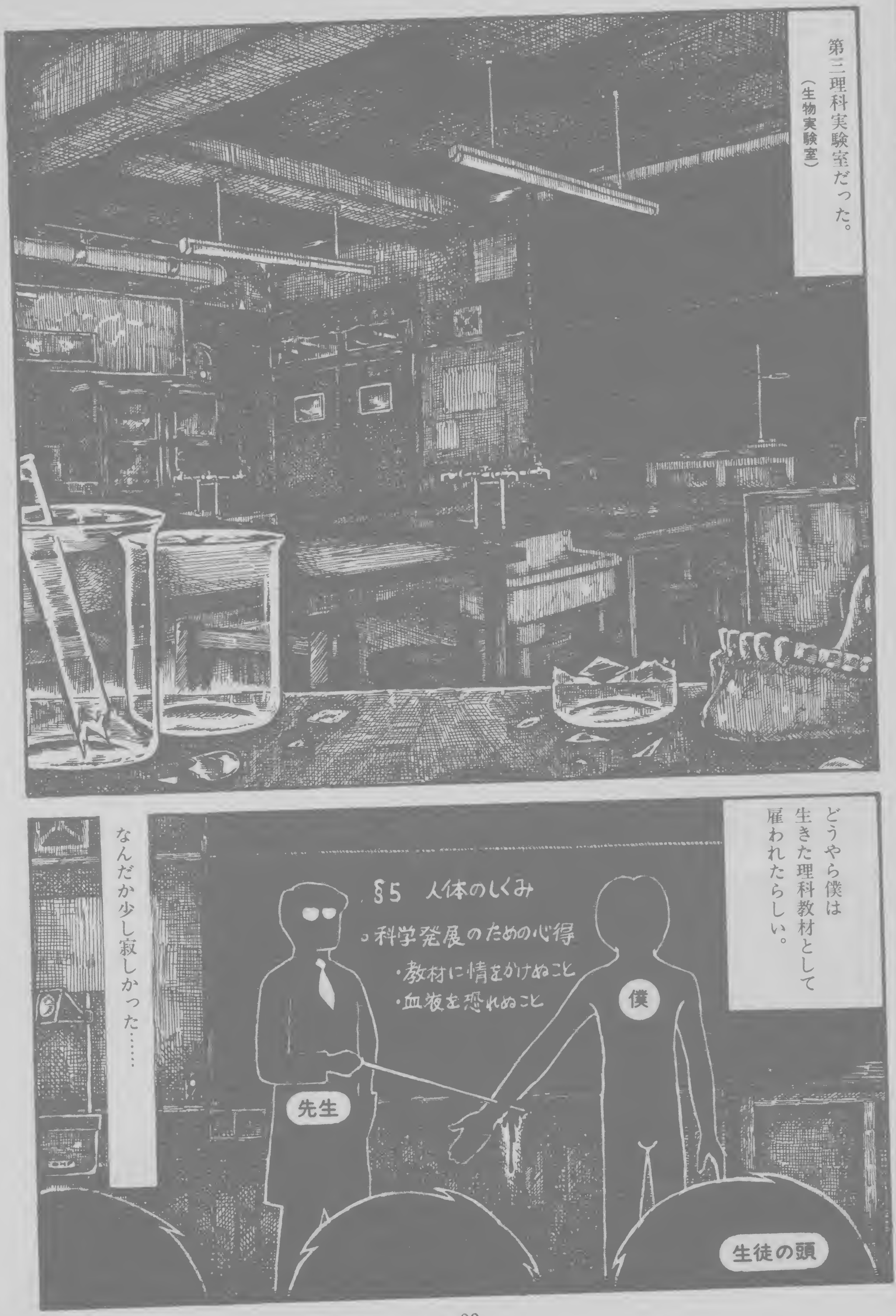
皮膚の剝けた
左手と右目

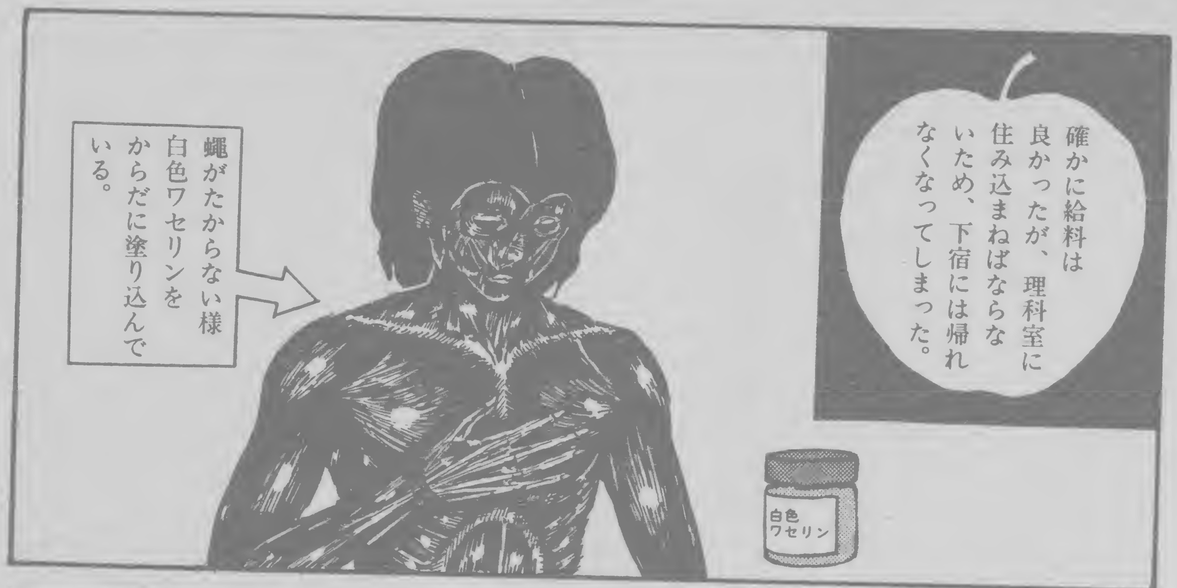
元の顔　姓名　小杉伸助

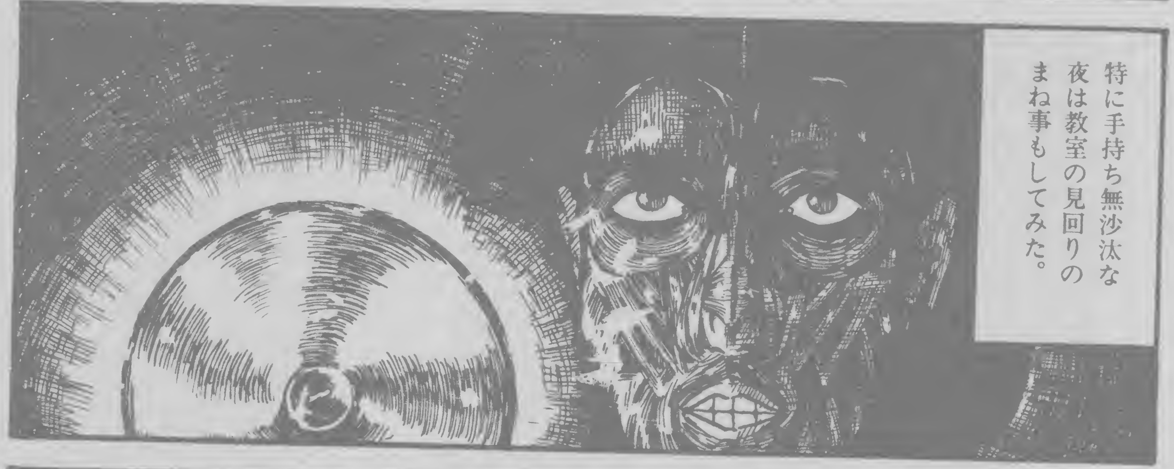

偶然
左手の中指に
「ささくれ」を
発見した僕は
それを
引き千切ろうと
した。
拡大図
ところが
このありさまだ。
中途半端なことは
厭であった。
僕は
リンゴの皮を剥くような感触を
楽しみながら自分の皮膚を
剥き続けた……！

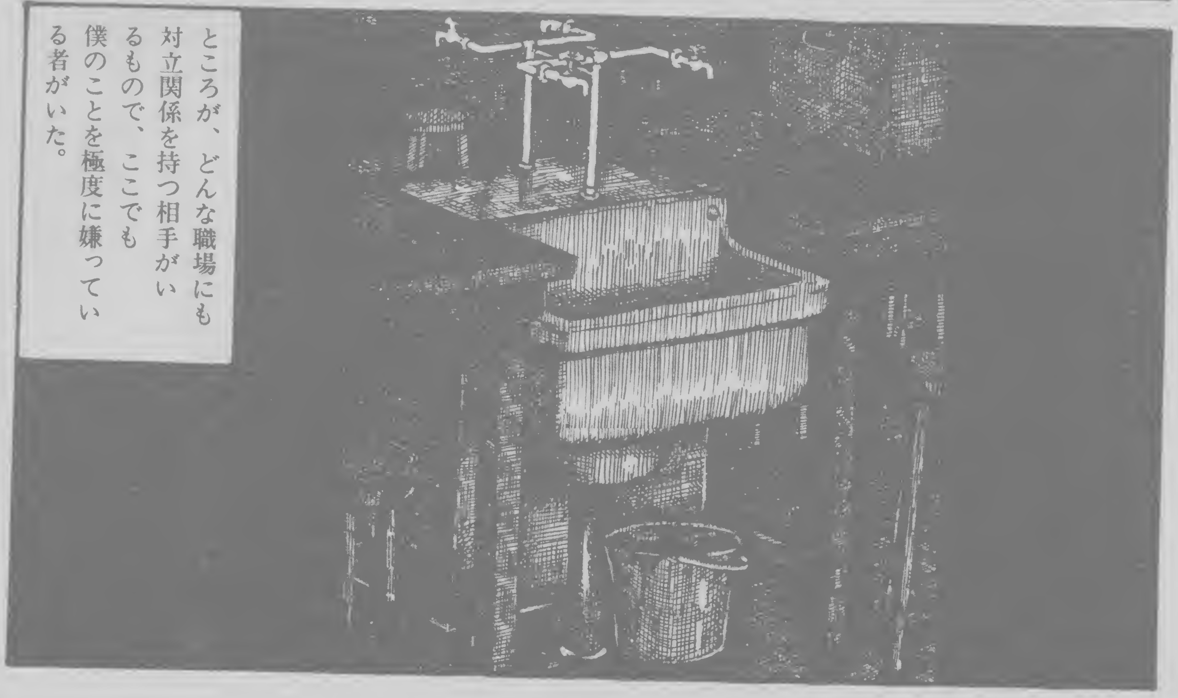

ふと気付くと自分は「むきリンゴ」の様になっていた。
こうなってまず困ったのは衣服を付けると剥けたからだがヒリヒリ痛むことだったが、
それも二・三日で自然に慣れてしまった。しかし、特に刺激に対して敏感な性器には下の図の様な物を今でも付けている。
①
②
コンドームの先を切ったもの
後悔…

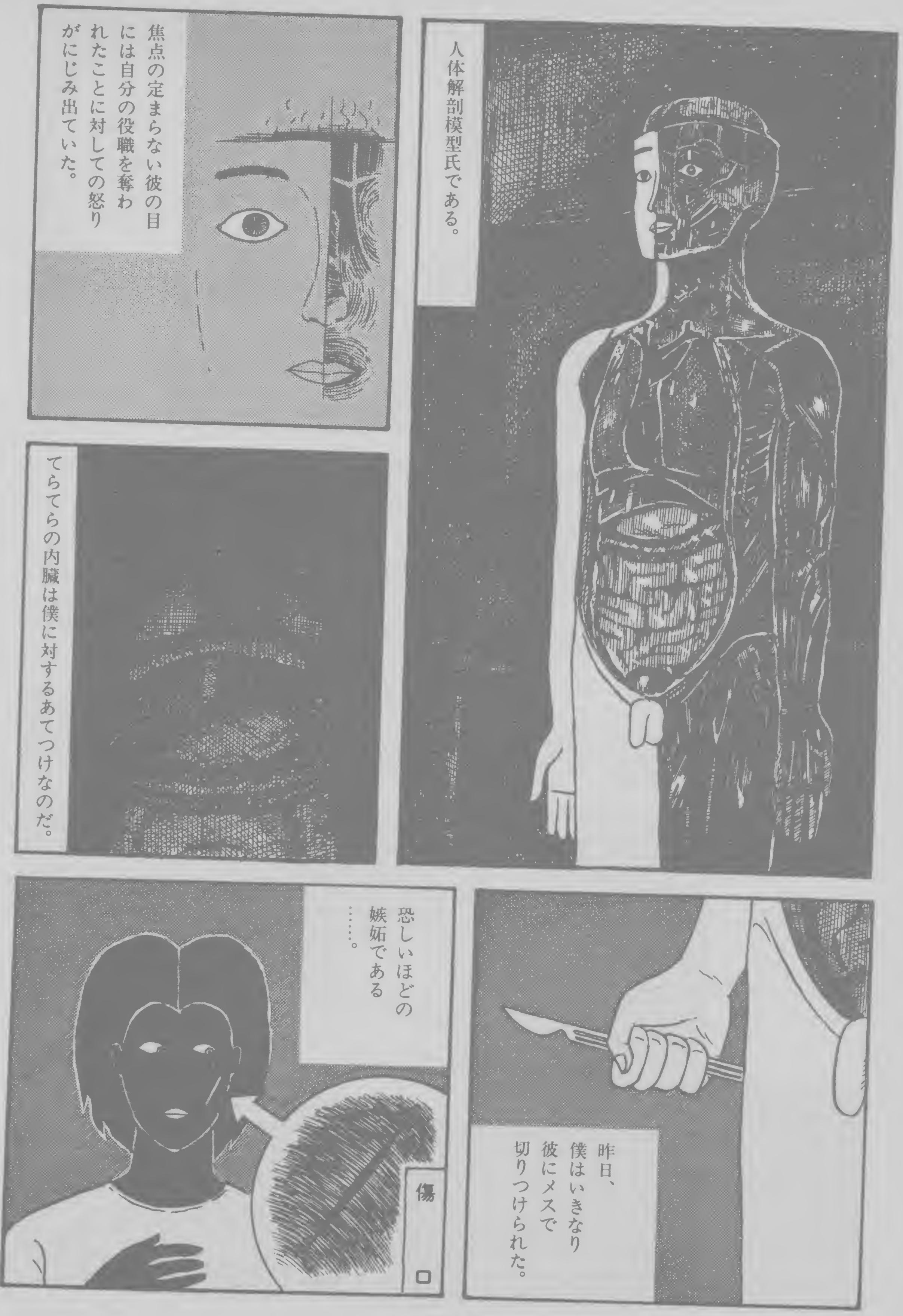

こんなからだでは「あるばいと」など出来る訳がない……
下宿生活をしている僕にとってこのほうがずっと深刻な問題であった。
中
だが意外にも僕を臨時職員として雇ってくれたのは 近所の中学校なのだった。
廊下のにおいを嗅ぎながら僕が初めて通された所は、

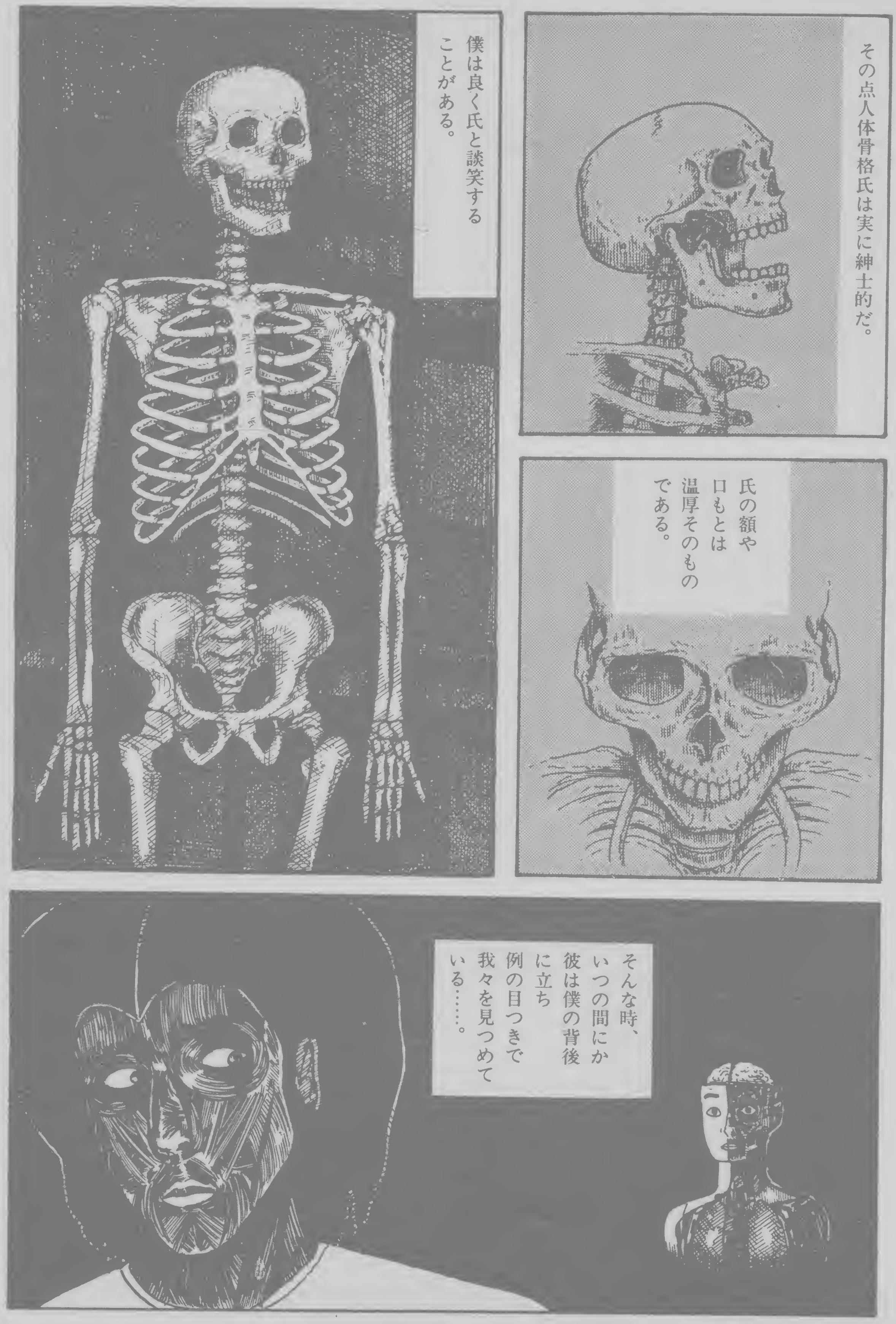

第三理科実験室だった。
（生物実験室）
どうやら僕は
生きた理科教材として
雇われたらしい。
§5 人体のしくみ
。科学発展のための心得
・教材に情をかけぬこと
・血液を恐れぬこと
僕
先生
生徒の頭
なんだか少し寂しかった……

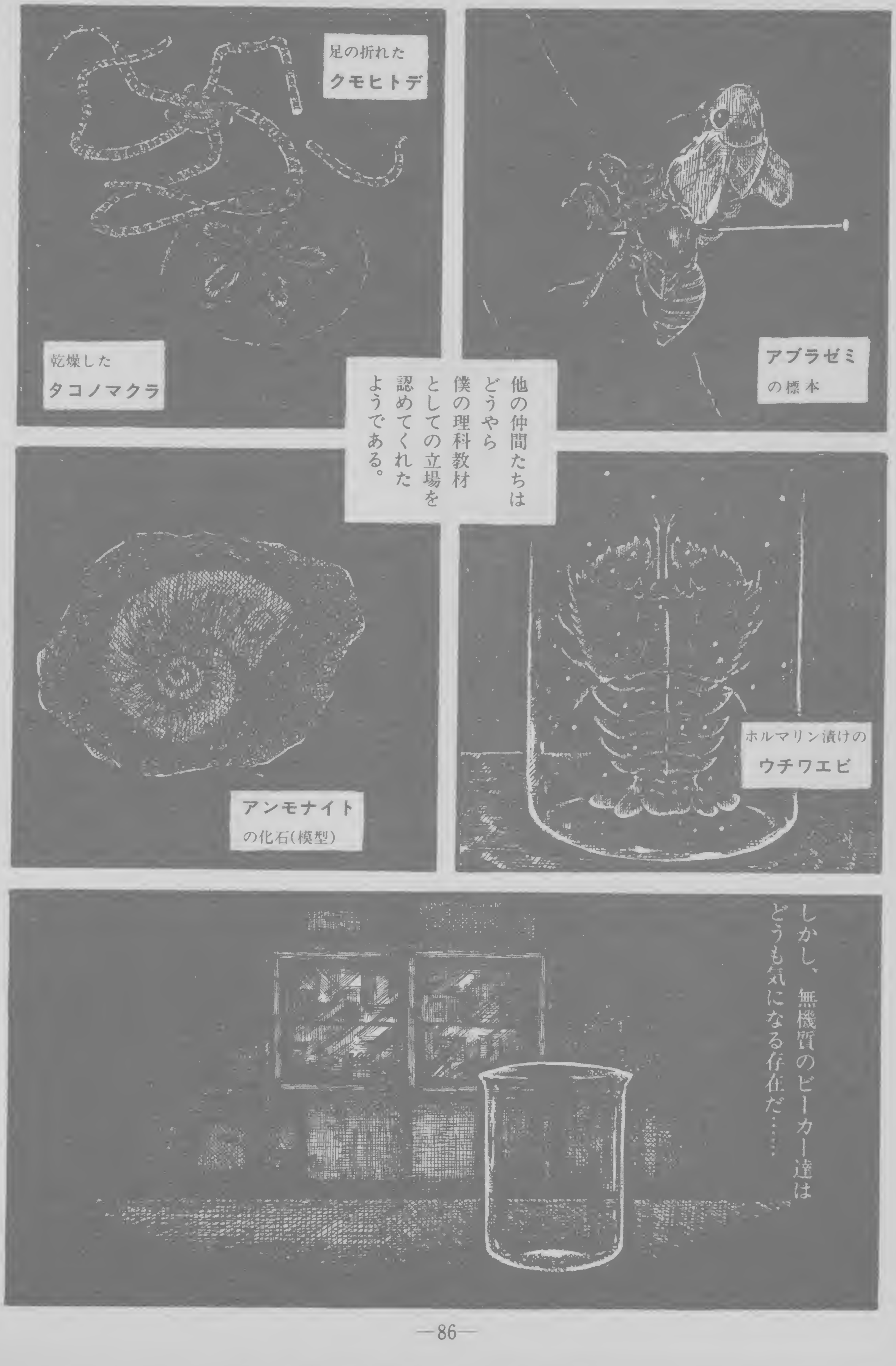

確かに給料は良かったが、理科室に住み込まねばならないため、下宿には帰れなくなってしまった。
白色ワセリン
蠅がたからない様白色ワセリンをからだに塗り込んでいる。


特に手持ち無沙汰な夜は教室の見回りのまね事もしてみた。


ところが、どんな職場にも対立関係を持つ相手がいるもので、ここでも僕のことを極度に嫌っている者がいた。

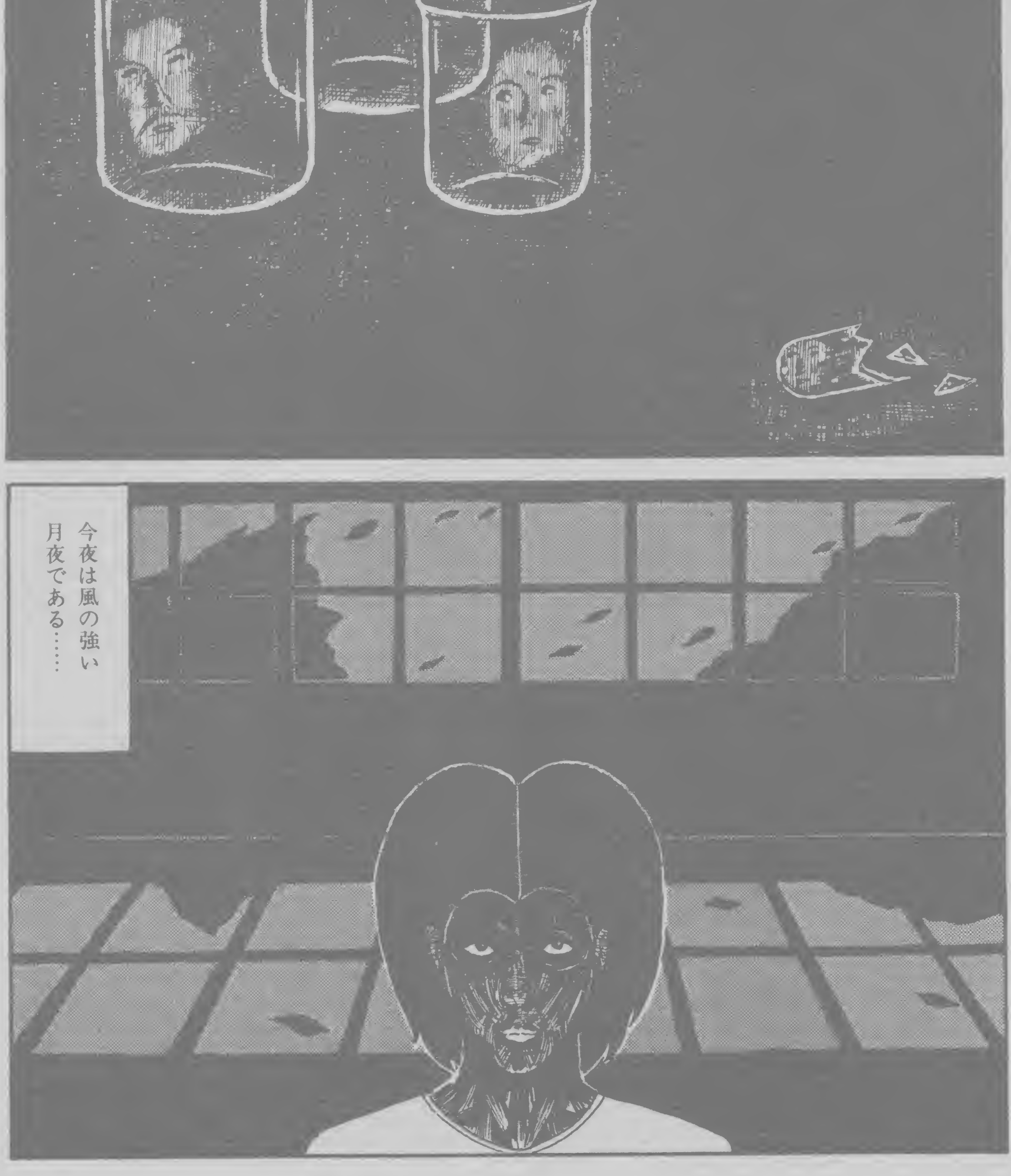

人体解剖模型氏である。
焦点の定まらない彼の目には自分の役職を奪われたことに対しての怒りがにじみ出ていた。
てらてらの内臓は僕に対するあてつけなのだ。
昨日、僕はいきなり彼にメスで切りつけられた。
恐しいほどの嫉妬である……。
傷口

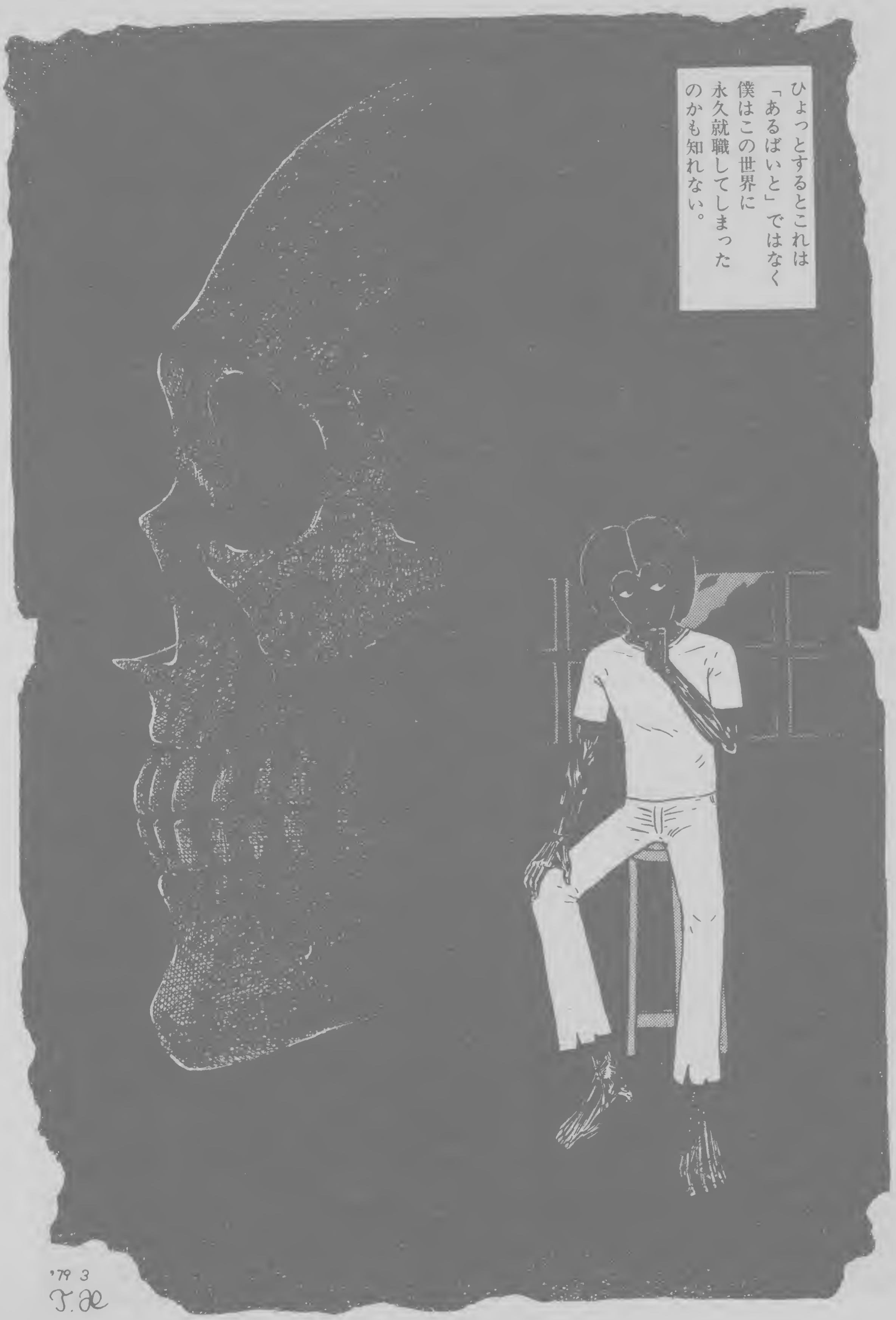

その点人体骨格氏は実に紳士的だ。
氏の額や口もとは温厚そのものである。
僕は良く氏と談笑することがある。
そんな時、いつの間にか彼は僕の背後に立ち例の目つきで我々を見つめている……。


アブラゼミ
の標本
足の折れた
クモヒトデ
乾燥した
タコノマクラ
ホルマリン漬けの
ウチワエビ
アンモナイト
の化石(模型)

他の仲間たちは
どうやら
僕の理科教材
としての立場を
認めてくれた
ようである。

しかし、無機質のビーカー達は
どうも気になる存在だ……


哲学的な表情をうかべ
僕のことについて何やら
話し合っているらしい。
今夜は風の強い
月夜である……



ひょっとするとこれは
「あるばいと」ではなく
僕はこの世界に
永久就職してしまった
のかも知れない。

'79 3